

藍涼祭ごみゼロプロジェクトへのご協力をお願い

北海道教育大学札幌校 環境サークル
エコ☆プロジェクトZ

昨年の藍涼祭において、2006年に引き続き、使い捨て容器の代わりにリユース食器を使用する「リユース活動」が実施されました。活動後に行われたアンケートでは、「環境にやさしい活動である」「活動に好印象を持っている」「毎年続けていくべきである」という各項目にYesと回答した学生の割合が、それぞれおよそ95%に達するなど、この活動も一定の定着を果たしたように思われます。

そこで、本年度の藍涼祭では、活動名を「藍涼祭ごみゼロプロジェクト」と改め、第60回という節目の年にふさわしく、より進化した環境対策と楽しい大学祭の両立を目指します。

来月には「環境」をテーマとした「北海道洞爺湖サミット」が開催されるなど、北海道内各地で環境問題への取り組みが活発化しています。将来世代の子どもたちのためにできることから始めていくことが、北海道唯一の教員養成大学で学ぶわたしたちにとっての使命ではないでしょうか。

他大学においても環境系のサークルが主体となり食器リユースの取り組みが行われた例は数多くありますが、大学祭主催者、参加者の意識が低く、活動として継続しなかったケースも目立っています。この活動を成功させ、継続させていくためには、「自分たちのイベントでリユースをおこなう」というみなさんの意識が絶対に欠かせません。

学生の藍涼祭離れがささやかれる中、今回出店を決意されたみなさんには、ぜひともこの活動の趣旨をご理解いただき、人と地球にやさしい大学祭作りにご協力お願い致します。

1. リユース食器とは

リユース(reuse)食器とは、使い捨てではなく洗うことにより何度も繰り返し利用可能な食器のことです。

リユース食器の利点は言うまでもなく、同じ食器を何度も繰り返し使うので、ごみを削減できる点にあります。また、使い捨て容器の購入費用が削減でき、その分のコストを浮かせることも可能です。リユース食器を用いることによる市民への環境啓発効果も見逃せません。

私たちの暮らしは便利な使い捨て商品に囲まれています。こうした便利さの反面で、ごみ問題など負の側面が問題化しています。こうした環境問題の深刻化に対し、レジ袋の有料化など暮らしの中から環境問題に取り組もうとする動きが出てきました。

近年では、3R(スリーアール)推進の動きが各地で活発化しています。「3R」とはごみを減らし循環型社会を構築するためのキーワードで、

- ① Reduce (リデュース、ごみの量を減らす)
- ② Reuse (リユース、繰り返し使う)
- ③ Recycle (リサイクル、資源として活かす)

の頭文字が3つの「R」であることに由来しています。2000年5月に制定された循環型社会形成推進基本法には、①→②→③という優先順位が明記されました。

生活の中の様々な場面で循環型社会に向けた動きが始まっています。リユース食器の利用もこうした先駆的な取り組みの一つであり、本来あたりまえに行われていくべきものです。

他大学においても、リサイクル容器を用いた環境対策が大々的に行われ、注目を集めています。しかし、「まずはじめにリサイクルありき」という考えは、言ってしまえばもはや過去のもので、藍涼祭では、まやかしてない新時代のエコを目指しましょう。

2. ごみゼロプロジェクトの目的

本プロジェクトの第一の目的は、なにより藍涼祭のおよぼす環境負荷の低減を図ることです。ここ2年間、リユースシステム導入により、環境に配慮した藍涼祭運営へと転換をはかってきました。今年はその集大成として、藍涼祭全体の環境負荷低減方法を考えていきます。

第二の目的は、藍涼祭における環境対策を学生、子どもたち、来場者、企画参加者のみなさんに発信し、環境意識を高めてもらうことです。長い目を見た場合、こうした観点がむしろ重要になってくるのではないかと私たちは考えています。

3. ごみの排出について

対象：藍涼祭全出店団体のみなさま

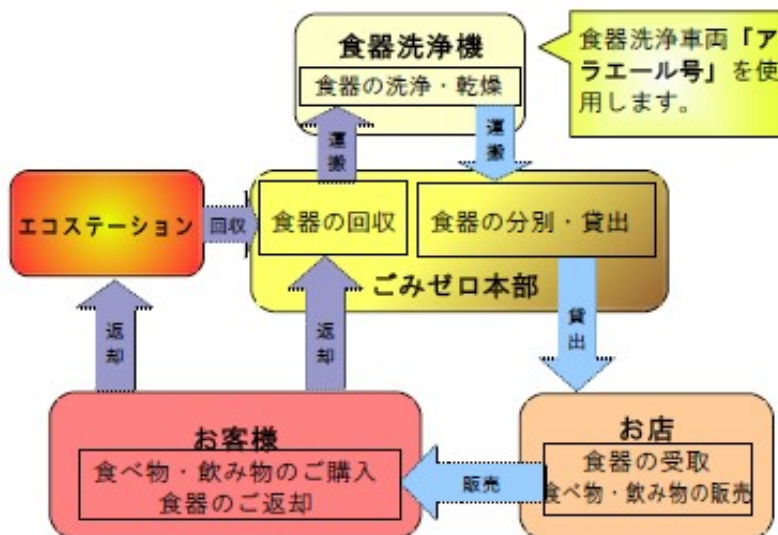
準備段階から少しでもごみの出ないように工夫しましょう。また、排出されてしまったごみの環境負荷を減らすためには、ごみの分別や適切な処理・リサイクルが必要不可欠です。今年は分別方法の見直し、リサイクルの導入を検討しています。昨年度は「いろいろな種類のごみが1つの袋に混ざっている」「巨大な紙や木の工作物がそのまま捨てられている」といった光景が少なからずみられました。ご理解とご協力をお願い致します。

4. リユースシステム

対象：屋外に出店する飲食物販売団体のみなさま（任意）

- 1 各出店団体はごみゼロ本部からリユース食器を借り入れます。
- 2 各出店団体はリユース食器で飲食物を販売します。
- 3 お客さんや出店団体は、使用済み食器を所定のエコステーションもしくは本部へ返却します。
- 4 回収した食器は、食器洗浄車両「アラエル号」で洗浄・乾燥します。
- 5 洗浄した食器は、再度各出店団体へ貸し出します。

<リユースシステム概略図>



食器洗浄車両アラエル号



使用予定のリユース食器

※出店者のみなさんにやっていただくことは、基本的には「使い捨て容器の代わりにリユース食器を使用して商品を販売すること」だけです。

○お持ち帰り容器（紙パック・プラスチック容器、割り箸など）の使用はできるだけ控えていただくよう、お願い申し上げます。このことは永遠のテーマであり、「ごみゼロ」を目指す上でぜひとも真剣に考えなければならない問題です。今年度も特に規制はしませんが、特にお客様が望まない限りはご面倒でもリユース食器の使用を優先させていただけると助かります。それを促すための一つの方法として、お持ち帰り容器を「資源保護のため」などの名目で有料化することなどが考えられます。容器代も浮いてお得です。

○移動食器洗浄車両アラエール号を、10月10日（金）、11日（土）、12日（日）分予約しています。昨年度は3日間通しての予約ができず、本大学生協の食器洗浄器を併用しましたが、今回はアラエール号のみで行います。

○使用するリユース食器に関しては、煩雑さ解消のため、昨年までと比べて種類を大幅に減らし、主に2種類の皿、どんぶり、リユースカップ、はし、スプーン（フォーク）に統一する予定です。ただし、数量に不足が予想される場合や出店される商品の内容によっては、生協の食器や有償貸与先からの借り入れも検討します。

○使い捨てでない自前の食器をご用意されるのは大いに結構です。自前のどんぶりでラーメンを出すという形でリユースに参加していただいた例もあります。

○例年、リユース食器の保証金として、藍涼祭当日に食器を使用される団体さんから2000円ずつ徴収させていただいております。今年度も、金額は未定ですが（1000円程度になると思います）、藍涼祭終了後に枚数を確認し、破損・紛失分を差し引いた額を団体さんに返却するという形をお願いすることになると思います。皆様のご協力のもと、回収率100%を目指しましょう。

5. そのほかの取り組み（検討中のもの）

○例年、メインストリート周辺には飲食のためのスペースが設置されておらず、そのことが「使い捨て容器」を選択する一つの理由となっている可能性もあります。今年は、本部周辺にテーブル（机）と椅子を配置し、ゆっくりとくつろげる休憩所（エコブース）を新設してみようと考えています。

○エコブースを中心に、今年の藍涼祭環境対策に関わる展示やビデオ上映などを行う予定です。

○少しでもこの企画を楽しいものにしたいということで、今年は容器ごみの出ない（あるいは少ない）メニュー（エコレシピ）を推進する活動を行う予定です。工夫の程度は一切問いません。「たこ焼きの皿をエビせんべいにする」など、工夫次第で楽しさが広がります。協力店には環境配慮型のお店であることを示す看板を配布するほか、エコブース、公式サイト上などでの宣伝、表彰なども考えています。みなさんも今から考えてぜひチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。

○今年はマイ食器の持参を来場者に呼びかけます。持参された方には割引や増量などのサービスがあったりすると素敵です。

6. ボランティアの募集について

活動準備段階において、本活動のスタッフとして活動して下さる方を募集しています。活動全体に関わるのは難しいという方でも構いません。少しでもお手伝いして下さる方がいらっしゃれば助かります。

当日のみのボランティアについては、現段階において参加形態が決まっていませんので、追ってご案内させていただきます。

